ご支援ください！

製作資金を募っています!!

映画 武蔵野

～江戸時代の循環農業が息づく地～

埼玉県の南西部に日本最大の平地林がある。大都市近郊にこれほど広大な平地林が残されている場所は他にない。ここは江戸時代、農家が落葉樹を植えて森を造成し、その落葉で堆肥を作って毎年畑に施し、やせた荒野を肥沃な農地に生まれ変わらせた場所である。その江戸の自然が循環する伝統農法が今日まで300年間以上も続けられている。この地域では平地林のことを「ヤマ」と呼び、農家は「ヤマがあるからこそ人は生きていける」と語る。無数の土壌微生物が生息し、肥沃な土壌を生み出している。若い後継者が多く育っているのもこの地域の特色だ。

しかし、首都圏に近いため、開発の波が押し寄せ、「ヤマ」は徐々に姿を消しつつある。そんな中、武蔵野の森を未来に残そうと、農家と市民が手を組んで保全活動が始まった。科学者や芸術家たちも動き出した。未来の子どもたちに大切な宝物を残そう、と。映画は、平成29年10月の完成をめざしています。

原村政樹（記録映画監督）

落ち葉掃き

サツマイモ苗取り

若手後継者

市民参加の農作業

山桜の老木伐採

山桜で家具製作

平成29年7～9月クラウドファンディング・レディフォーで製作資金を集めています！

ドキュメンタリー映画「武蔵野」製作中です！

後援：川越市・所沢市・狭山市・ふじみ野市・三芳町

協賛・アグリエイティブネットワーク＜埼玉県農業者ネットワーク＞

埼玉県南西部（川越市・所沢市・狭山市・ふじみ野市・三芳町など）に広がる武蔵野の平地林。ここには貴重な「農の文化」があります。その農業の魅力を再発見し、また、大自然と共に生きる暮らしの豊かさを伝え、混迷する現代に生きる私たちが人間らしさを取り戻すためのヒントとなるような作品を目指します。

■ 原村政樹（はらむら まさき）　経歴

1957年3月生まれ。上智大学卒業後フリーの助監督としてドキュメンタリージャパンなどで映像の仕事を始める。1988年桜映画社入社。以後、映画・TV番組を監督製作。2006年「いのち耕す人々」キネ旬第4位。2008年「里山っ子たち」キネ報第3位。2009年「里山の学校」。2013年「天に栄える村」キネ旬第5位。2013年、NHK新日本風土記「川越」製作。2015年にフリーとなって製作に取り組んだ「無音の叫び声」の映画＆書籍は、「2016年　第31回農業ジャーナリスト賞」W受賞。約40年前から川越市在住。

奇しくも映画製作中に「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が日本農業遺産に認定されました！

https://readyfor.jp/ projects/cinema-musashino

その神髄を描く映画「武蔵野」を完成させるためにクラウドファンディング・レディフォーで本映画製作及び上映活動

資金300万円

の調達に取り組んでいます。
（平成29年6月29日～9月27日）。

製作資金が足りません！

本プロジェクトへのご参加ご支援で映画を完成させて下さい！（各3,000円～10万円）

■ 作家・村上　龍 氏

友人である「原村政樹監督」のドキュメンタリー『武蔵野』への支援をお願いできればと思います。

「武蔵野」は、東京、関東の人々にとってなじみ深い地名です。国木田独歩の名作エッセイ『武蔵野』に、印象深い表現があります。独歩は、「武蔵野」の重要な特徴を、「町外れ」と指摘しています。「町外れ」は、似たような風景が続く現代では、死語かもしれませんが、わたしは、「境界」という意味が含まれるのではないかと思っています。

「境界」は、魅惑的な概念です。でも、今の日本で「境界」と出会うのは、「均一化」と「密集」の中、非常に困難です。映画『武蔵野』では、「境界に囲まれた土地」で農業を営む人々が描かれます。人々は、心の底からの、しかも慎ましい笑顔を見せています。幸福、喜び、楽しさ、そんな言葉では表せない笑顔です。わたしたちが本来持っていた貴重で希少な「笑顔」に、この映画で出会うことができます。

■作家・澤地久枝 氏

どこに武蔵野はあるのか？が私の多年の実感だった。7分間の予告編を見て「ああ、これが武蔵野」と胸から引き出される思いがある。自主製作で資金を募集しつつ創っているという。原村政樹監督は、おとなしくてタフな人だ。「武蔵野」を完成させたい。あたなも市民プロデューサーの一人になりませんか。

映画「武蔵野」製作委員会　会長・大野松茂　副会長・鈴木敏夫　事務局長・大沢克美

事務局：〒350-1133 川越市砂846-3　Fax.049-242-4811　E-mail：suzutoshi0620@nifty.com